目　次

第１講　昭和史①（戦前）　……………………………… p2

第２講　昭和史②（戦中）　……………………………… p6

第３講　昭和史③（民主化）　…………………………… p12

第４講　昭和史④（高度経済成長）　…………………… p18

第５講　昭和史⑤（安定成長）　………………………… p22

第６講　平成史　………………………………………… p26

第１講　昭和史①（戦前）

若槻礼次郎①内閣（1926～27年）

加藤高明首相の急逝により組閣された，**憲政会**の政党内閣。

※外相は幣原喜重郎（＝**幣原協調外交**）。

1926年　大正天皇崩御により**昭和**と改元

1927年　片岡直温蔵相の失言を契機に**金融恐慌**発生

枢密院が台湾銀行救済緊急勅令案を否決

※これにより総辞職。

田中義一内閣（1927～29年）

陸軍・長州閥出身の第５代総裁による，**立憲政友会**の政党内閣。

※外相は田中義一が兼任（＝**田中積極外交**〔二面外交〕）。

※立憲政友会総裁は，①伊藤博文②西園寺公望③原敬④高橋是清⑤田中義一と変遷。

1927年　高橋是清蔵相が３週間の支払猶予令〔モラトリアム〕で金融恐慌を収拾

第１次山東出兵

東京における**東方会議**で『対支政策綱領』作成

ジュネーブ海軍軍縮会議（首席全権は斎藤実）

1928年　**初の普通選挙実施**→無産政党から８名が当選

三・一五事件で共産党員を大検挙

第２次山東出兵→済南事件

第３次山東出兵

張作霖爆殺事件〔満州某重大事件〕

治安維持法を改正し死刑・無期刑を追加

全国に特別高等警察〔特高〕を配備

パリで**不戦条約**に調印（首席全権内田康哉）

1929年　四・一六事件で共産党員を大検挙

張作霖爆殺事件処理問題を昭和天皇に叱責される

※これにより総辞職。

浜口雄幸(おさち)内閣（1929 ～ 31 年）

２年前，憲政会と政友本党が合同し成立した**立憲民政党**の政党内閣。

※外相は幣原喜重郎（＝**幣原協調外交**）。

1929 年　ニューヨークで**世界恐慌**発生（10 月 24 日“暗黒の木曜日(ブラック・サーズデー)”）

1930 年　**井上準之助蔵相**による**金輸出解禁〔金解禁〕**

昭和恐慌発生（～ 31 年）

ロンドン海軍軍縮会議で**統帥権干犯(とうすいけんかんぱん)問題**発生（首席全権若槻礼次郎）

ロンドン海軍軍縮条約

浜口雄幸首相が東京駅で右翼に狙撃される

1931 年　桜会・民間右翼による三月事件

重要産業統制法

※入院中の首相の容態悪化により総辞職。

若槻礼次郎②内閣（1931 年）

浜口雄幸首相の容態悪化により成立した，**立憲民政党**の政党内閣。

※外相は幣原喜重郎（＝**幣原協調外交**）。

1931 年　**柳条湖(りゅうじょうこ)事件**により**満州事変**勃発（９月 18 日）

桜会・民間右翼による十月事件

満州事変を収拾できず閣内不統一により総辞職

犬養毅(いぬかいつよし)内閣（1931 ～ 32 年）

尾崎行雄と並ぶ“憲政の神様”である，第６代総裁による**立憲政友会**の政党内閣。

※外相は芳沢謙吉(よしざわけんきち)。

1931 年　**高橋是清蔵相**による**金輸出再禁止**

1932 年　第１次上海(シャンハイ)事変

血盟団員により前蔵相井上準之助暗殺

リットン調査団来日

満州国建国宣言

血盟団員により三井合名会社理事長団琢磨暗殺

五・一五事件により犬養毅首相暗殺

※これにより総辞職。８年に渡る政党内閣期**“憲政の常道(じょうどう)”は終了**。

斎藤実(まこと)内閣（1932 ～ 34 年）

海軍出身者による**挙国一致内閣**。

※外相は内田康哉のち広田弘毅(こうき)。

1932 年　農山漁村経済更生(こうせい)運動開始→高橋是清蔵相

　　　　日満議定書締結により満州国を承認（執政は溥儀(ふぎ)）

1933 年　ドイツでヒトラーのナチ党内閣成立

　　　　リットン報告書発表

　　　　松岡洋右(ようすけ)代表が**国際連盟脱退**を通告（35 年発効）

　　　　塘沽(タンクー)停戦協定により**満州事変終結**

　　　　フランクリン = ローズヴェルト大統領によりニューディール政策開始

　　　　滝川事件〔京大事件〕により滝川幸辰(ゆきとき)教授が休職

1934 年　満州国帝政開始（皇帝は溥儀）

　　　　帝人事件〔帝国人絹(じんけん)疑獄事件〕により総辞職

岡田啓介(けいすけ)内閣（1934 ～ 36 年）

海軍出身者による挙国一致内閣。

※外相は広田弘毅。

1934 年　陸軍が『国防の本義と其強化の提唱』（＝陸軍パンフレット）を発行

　　　　ワシントン海軍軍縮条約破棄をアメリカに通告

1935 年　**美濃部達吉(みのべたつきち)の「天皇機関説」が議会で問題化**

　　　　２度にわたる**国体明徴(めいちょう)声明**

　　　　陸軍皇道派の相沢三郎が統制派の永田鉄山を殺害（＝相沢事件）

　　　　イタリアがエチオピアに侵攻

　　　　華北分離工作開始

1936 年　ロンドン海軍軍縮会議脱退

　　　　皇道派による**二・二六事件**で高橋是清蔵相・斎藤実内大臣ら殺害

　　　　※首相は生き延びたが，これにより総辞職。

広田弘毅内閣（1936 ～ 37 年）

外交官出身者による挙国一致内閣。陸軍の強い干渉により成立。

※外相は有田八郎。

1936 年　**軍部大臣現役武官制復活**

立憲民政党議員斎藤隆夫による陸軍批判の「粛軍演説」

『国策の基準』決定→当時は馬場鍈一蔵相

ベルリン・ローマ枢軸形成→ドイツのヒトラーとイタリアのムッソリーニ

日独防共協定

西安事件（中国国民党の張学良が党首の蔣介石を軟禁）

ワシントン・ロンドン両海軍軍縮条約失効

1937 年　陸軍・政党の反発を受け総辞職

※組閣の大命を受けた陸軍出身の**宇垣一成**は，陸軍が陸相を推薦せず流産。

林銑十郎内閣（1937 年）

陸軍出身者による挙国一致内閣。

※外相は佐藤尚武。

1937 年　結城豊太郎蔵相による「軍財抱合」演説

総選挙後の政党の退陣要求により総辞職